

## ニュースな経営

2003年5月17日、りそなホールディングスが政府に対して公的資金による資本注入を申請すると発表しました。

その理由は2003年3月期末の自己資本比率がりそなホールディングスで3%台後半、りそな銀行で2%台前半と国内で業務を営む最低基準の4%を下回ったためです。

銀行の自己資本比率は・・・

国際業務を行う場合 ⇒ 自己資本比率が8%以上必要、

国内業務のみ行う場合 ⇒ 自己資本比率が4%以上必要 とのルールがあります。

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$$

### Q1: 自己資本ってなに?

A1: 返済する必要のないお金のことです。

事業を行うためにはお金が必要です。そのお金をどこから調達したかによって次のように分類されます。

自己資本 = 自分のお金で、返済義務のないお金 ⇒ 資本の部の金額

他人資本 = 他人から借りたお金で、返済義務のあるお金 ⇒ 負債の部の金額

これらは事業を行うための元手ですから合わせて「総資本」といいます。

(ちなみに、資産の部は、調達した元手を何に使ったかを意味します。)

### Q2: 自己資本比率でなにがわかるの?

A2: 経営の安全性が高いか低いかがわかります。

元手(総資本)のうち、返済義務のないお金(自己資本)の占める割合ですから、この割合が高いほうが安全というわけです。つまり、**債務支払能力**を表します。

中小企業ベンチャー振興基金によると20%以上が理想です。

### Q3: 自己資本比率を高めるには?

A3: 利益を多くして内部の蓄積をはかる、  
 増資などによって自己資本の充実をはかる  
 自己資本の増強をはかる・・・  
 といったことが考えられます。

弥生会計で作成した決算書で計算してみましょう。

**貸借対照表**

株式会社弥生トレーディング  
2003年3月31日現在  
(単位:円)

資産の部		負債の部	
<b>【流動資産】</b>	31,894,409	<b>【流動負債】</b>	24,141,497
現金・預金	19,131,800	支払手形	2,027,287
受取手形	578,698	買掛金	18,028,268
売掛金	5,303,697	短期借入金	1,500,000
商品	6,500,964	未払金	58,653
仕掛品	195,600	未払法人税等	400,000
原材料	183,650	未払消費税	885,005
<b>【固定資産】</b>	32,654,837	預り金	1,242,284
<b>【有形固定資産】</b>	31,784,837	<b>【固定負債】</b>	25,250,000
建物	9,241,558	長期借入金	25,250,000
建物附属設備	1,227,500	<b>負債の部合計</b>	49,391,497
車両運搬具	5,020,285	<b>資本の部</b>	
工具器具備品	1,295,494	<b>【資本金】</b>	10,000,000
土地	15,000,000	資本金	10,000,000
<b>【投資等】</b>	870,000	<b>【利益剰余金】</b>	5,157,749
出資金	10,000	当期末処分利益(損失)	5,157,749
差入保証金	860,000	(うち当期利益(損失))	3,790,853
<b>資産の部合計</b>	64,549,246	<b>資本の部合計</b>	15,157,749
		<b>負債・資本合計</b>	64,549,246

他人資本

自己資本

総資本

$$\begin{aligned} \text{自己資本比率} &= \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100 \\ &= 15,157,749 \div 64,549,246 \times 100 = 23.48\% \end{aligned}$$

## 健全性を示す数値は他にもあります

$$\begin{aligned} \text{流動比率} &= \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \\ &= 31,894,409 \div 24,141,497 \times 100 = 132.11\% \end{aligned}$$

流動資産(支払手段)と流動負債(支払義務)と比較ですので、高いほど良好です。**企業の支払能力**を表します。アメリカでは200%以上必要ですが、中小企業ベンチャー振興基金によると100%以上が理想です。

$$\begin{aligned} \text{固定比率} &= \text{固定資産} \div \text{自己資本} \times 100 \\ &= 32,654,837 \div 15,157,749 \times 100 = 215.43\% \end{aligned}$$

固定資産を購入するということは、長期にわたって資金を寝かせることになります。ですから、返済の必要がない自己資本でまかなう方が健全です。**企業の設備投資のバランス**を表します。日本の上場企業の平均が150%前後と言われます。

ぜひ、この機会に御社の決算書をご検討ください! 詳しくは当事務所担当者まで。  
 (裏面につづく)



# 弥生サポート塾

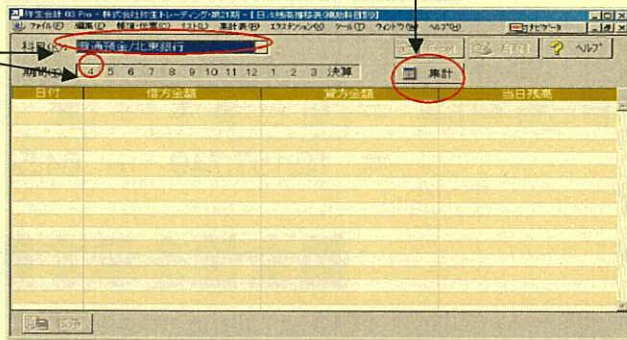
今回は、毎日の残高の確認に便利な機能を紹介します。  
 まとめて入力していると“預金通帳と同じ金額を入力しているのに、残高があわない！”ということはありませんか？数字の入力ミスがすぐにわかります！  
 例えば、4月20日の預金通帳残は¥6,434,975なのに、弥生の残高は¥6,435,459の場合、何日の残高があっていないか簡単に確認できます。  
 (今回は補助ありでの例です)



メニューバーの「集計表」から「日次残高推移表」を選択し、次に「補助科目別」を選択

科目と月を選択したら「集計」ボタンをクリック

確認したい科目・月を選択



入力している取引の日々の残高が表示されます

日付	借方金額	貸方金額	当日残高
前期末残			3,479,706
04/02	0	700,000	2,779,706
04/04	0	500,000	2,279,706
04/05	2,025,148	0	4,314,854
04/09	700,000	0	5,014,854
04/11	0	80,100	4,934,754
04/12	0	44,825	4,889,929
04/15	0	66,150	4,781,879
04/18	0	36,500	4,755,459
04/20	1,880,000	0	6,435,459
04/21	5,823,587	0	12,059,048
04/23	0	2,096,658	9,972,388
04/26	2,987,452	5,630	12,954,210
04/27	500,000	0	13,454,210
04/28	0	12,300	13,441,910
04/30	1,983,068	9,558,400	5,865,568

その他、補助をとっている科目や現金の残高確認もできます！

確認したい日付の行をダブルクリックすると、補助元帳の画面にきりかわります。  
 どの仕訳取引が入力ミスか簡単に確認できます



ご挨拶

中国は2001年12月11日に正式にWTOに加盟しました。関税率の引き下げや投資条件の緩和など、ますます魅力的な国際市場になりつつあります。

こうした環境の下で、私たちのお客様の中にも中国進出をお考えになっている企業が増えてきています。このようなお客様に少しでも役に立ちたいと考え、土屋税理士事務所では、中国事業部を設立いたしました。中国会計士事務所との連携の強化に加え、所内にも中国語と日本語を駆使でき、両国の資格をもつ専門スタッフを揃えております。

また、上海駐在事務所の開設も予定しております。お気軽にご相談ください。



## 業務内容

会計税務顧問	中国現地法人において
	財務諸表、申告書の作成
	経理事務員に対する業務指導
	総経理に対する会計及び税務の相談
	日本親会社において
	財務諸表及び月次訪問報告書の説明
設立清算等の相談	投資者に対する会計及び税務の相談
	経営改善に関するアドバイス
設立清算等の相談	現地法人、駐在事務所の設立、精算、増減資などに関するアドバイス
	設立、精算、増減資等の手続き代行
監査、監査等 (提携会計事務所による)	資本金の監査証明書の発行
	決算監査証明書の発行
その他	連合年検業務の代行
	中国出張の同行
	契約書その他法律書類の作成
	記帳代行
	社内規定及び内部管理制度の助言
	翻訳、通訳の紹介
	中国弁護士との連携による法律のサポート

詳しくは当事務所ホームページをご覧ください。

<http://www.ai-field.co.jp/tutiya>